

# 2017年3月期 決算説明会

2017年5月9日

## 資料取り扱い上の注意

- ・本資料および口頭にて提供する業績予想は、当社が発表日現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績などは様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- ・本資料に記載しております数字につきましては、単位未満切捨てで処理しております。比率は四捨五入しております。

株式会社SCREENホールディングス  
代表取締役 取締役社長 最高経営責任者 (CEO)

垣内 永次

## ▶▶ 2017年3月期決算のポイント

- 営業利益337億円、営業利益率11.2%、過去最高  
4期連続の増収増益
- 中期経営計画の数値目標達成
  - ・ 営業利益率11.2%
  - ・ 自己資本比率47.5%（実質50%）
- ネットキャッシュの通年維持
- SE>>>
  - ・ 売上高、営業利益、通期受注累計額、過去最高
  - ・ SPE上位10社中、売上成長率でトップ(CY2016)
  - ・ 枚葉洗浄装置、世界シェア13ptアップ(CY2016)

## 本日のアジェンダ

### 1. 2017年3月期 連結業績

### 2. セグメント別業績概況

### 3. 財務状況

### 4. 2018年3月期 業績予想

### 5. 中期3カ年経営計画について

1. 2017年3月期 連結業績



2. セグメント別業績概況



3. 財務状況



4. 2018年3月期 業績予想



5. 中期3カ年経営計画について



連結業績 <2017/3月期>

(億円)	2016/3月期					通期	2017/3月期					通期	前期比	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q		2Q	3Q	4Q	通期	通期 (増減)			
売上高	561	737	530	768	2,596	622	738	738	902	3,002	405	15.6%		
SE	347	472	320	517	1,658	412	503	506	637	2,060	402	24.3%		
GP	147	165	138	161	612	114	146	120	166	547	▲65	▲10.7%		
GA(印刷関連機器)	126	140	124	130	523	96	124	104	132	458	▲64	▲12.4%		
PE(プリント基板関連機器)	20	25	13	30	89	18	21	16	33	89	▲0	▲0.6%		
FT	63	96	69	87	315	93	86	108	93	381	65	20.6%		
その他および調整	3	2	2	2	10	1	2	3	5	12	2	27.8%		
営業利益	32	75	41	85	235	51	70	91	124	337	101	43.2%		
営業利益率(%)	5.9	10.2	7.9	11.2	9.1	8.2	9.6	12.4	13.7	11.2	-	2.2pt		
SE	21	58	30	77	187	43	60	80	108	293	106	56.6%		
GP	9	7	4	9	31	▲1	10	2	10	22	▲9	▲29.8%		
FT	1	14	6	5	27	12	5	11	14	43	16	59.8%		
その他および調整	0	▲4	0	▲6	▲10	▲3	▲5	▲3	▲9	▲21	▲11	-		
経常利益	34	71	41	84	231	50	66	90	112	320	88	38.1%		
親会社株主に帰属する 当期純利益	22	62	34	68	188	37	57	68	78	241	53	28.5%		

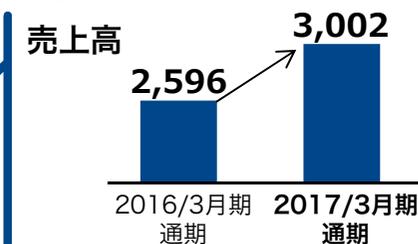
SE：セミコンダクターソリューション事業    GP：グラフィックアンドプレジジョンソリューション事業  
 FT：ファインテックソリューション事業

連結業績サマリー <2017/3月期>

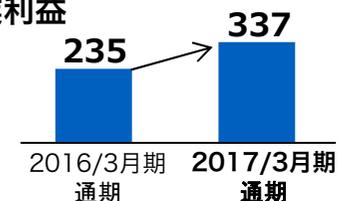
前期比

(億円)	2016/3月期	2017/3月期	増減	
	通期	通期		
売上高	2,596	3,002	405	15.6%
営業利益 営業利益率	235 9.1%	337 11.2%	101 2.2pt	43.2%
経常利益	231	320	88	38.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	188	241	53	28.5%

前期比



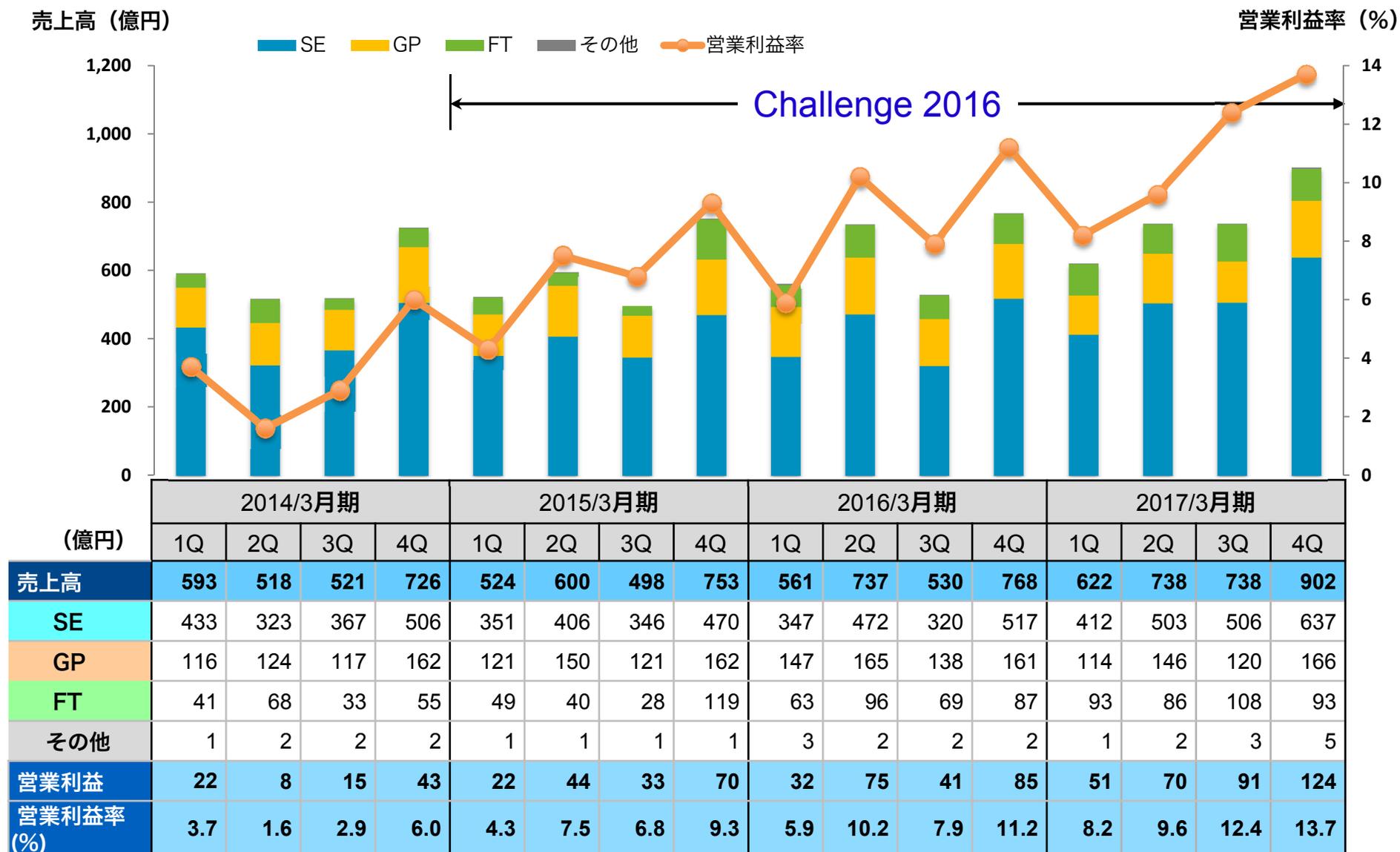
営業利益



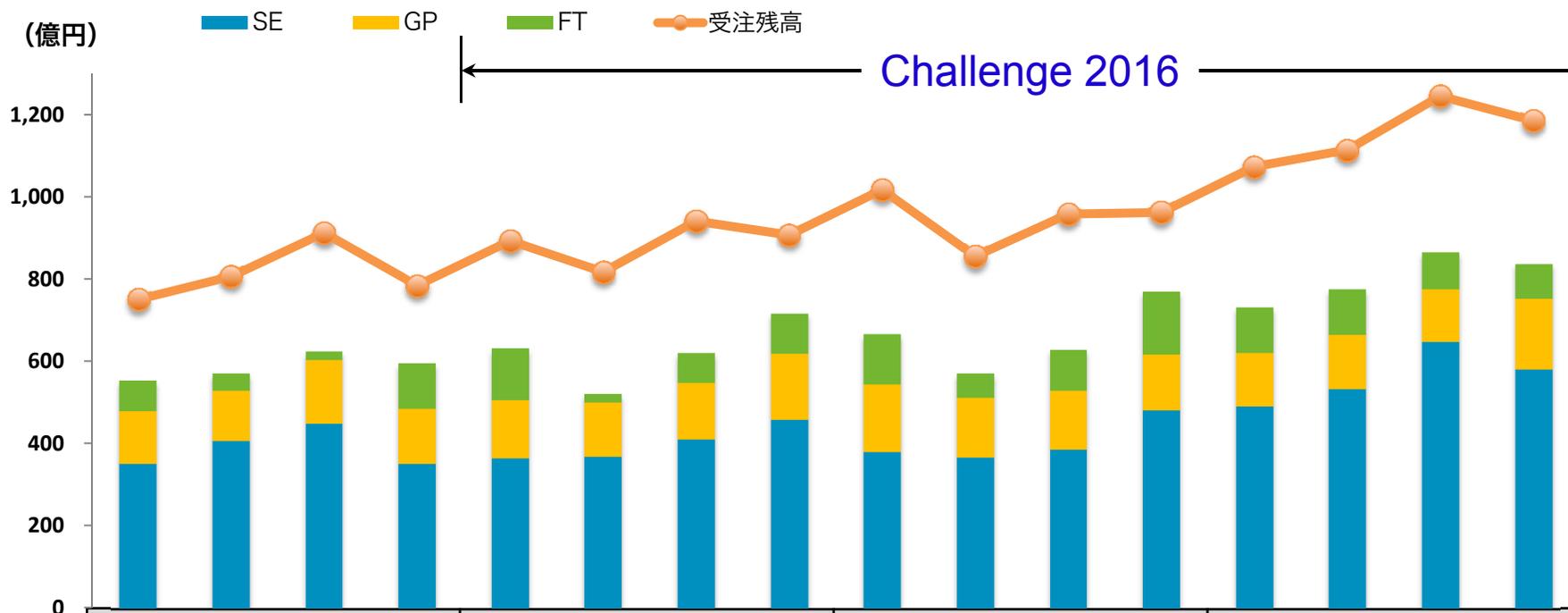
前四半期比

(億円)	2017/3月期	2017/3月期	増減	
	3Q	4Q		
売上高	738	902	163	22.1%
営業利益 営業利益率	91 12.4%	124 13.7%	32 1.4pt	35.6%
経常利益	90	112	21	23.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	68	78	9	13.9%

## 連結売上高/営業利益の四半期推移



連結受注高/受注残高の四半期推移



(億円)	2014/3月期				2015/3月期				2016/3月期				2017/3月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
受注高	553	572	625	596	632	521	620	718	667	573	630	770	731	776	866	837
SE	351	407	450	351	366	369	411	459	381	367	386	481	491	533	648	581
GP	129	122	153	134	141	132	137	160	164	144	144	135	129	131	127	171
FT	73	42	21	110	125	20	72	98	121	60	99	154	111	111	90	85
受注残高	750	806	912	784	893	817	941	907	1,017	855	958	962	1,073	1,114	1,245	1,185

1. 2017年3月期 連結業績



2. セグメント別業績概況



3. 財務状況



4. 2018年3月期 業績予想



5. 中期3カ年経営計画について



セグメント別業績概況 <SEセグメント>

前期比

(億円)	2016/3月期	2017/3月期	増減	
	通期	通期		
売上高	1,658	2,060	402	24.3%
営業利益 営業利益率	187 11.3%	293 14.2%	106 2.9Pt	56.6%

前期比

売上高



前四半期比

(億円)	2017/3月期	2017/3月期	増減	
	3Q	4Q		
売上高	506	637	131	25.9%
営業利益 営業利益率	80 16.0%	108 17.0%	27 1.0pt	33.8%

営業利益



- ▶ 通期、ファウンドリーの微細化投資向けの伸長が大きく貢献。3D-NAND向け装置売上、前期比で約2倍に増加、売上増を牽引
- ▶ 2018/3月期は、ファウンドリー/ロジックの微細化投資にも期待。3D-NANDのさらなる多層化投資、DRAMの微細化投資が市場を牽引すると予想期末には中国の新興ユーザーの投資開始の可能性もあり、好調な市場環境の維持を予想

## セグメント別業績概況 &lt;SEセグメント&gt;

## ▶▶ ホット・トピックス

- 過去最高の売上高・営業利益・受注累計を達成 <FY2017>  
営業利益率も最高レベルに迫る
- SPEメーカー上位10社中、売上成長率でトップを記録 <CY2016>
- 主力の枚葉洗浄装置、世界シェア13ptアップ <CY2016>



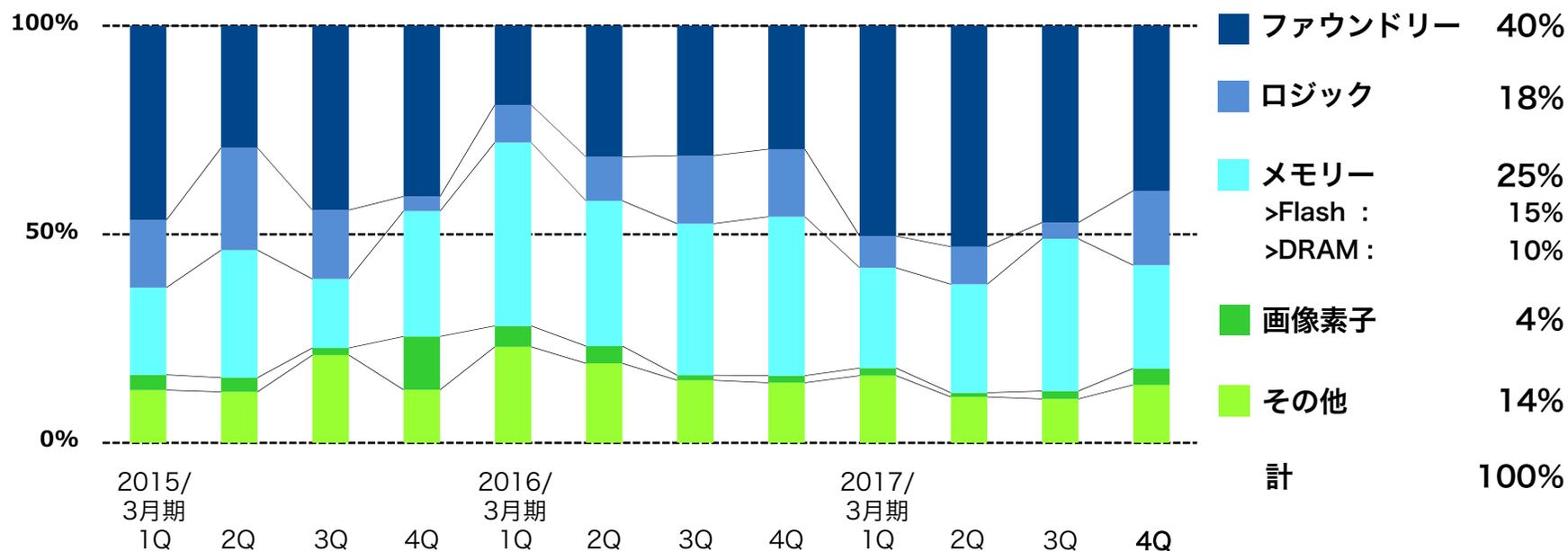
枚葉洗浄装置 SU-3200

- ビジネス拡大に向け、注力分野に新製品を投入達成 <FY2017>
  - ・主にメモリー分野(枚葉洗浄装置 SU-3300)
  - ・Advanced Package分野(直接描画装置 DW-3000 for PLP)
  - ・ロジック、メモリー、パワーデバイス向け(UVレーザーアニール装置 LT-3100)

## デバイス別／地域別受注比率・四半期推移 <SEセグメント>

### 単独・デバイス別受注比率

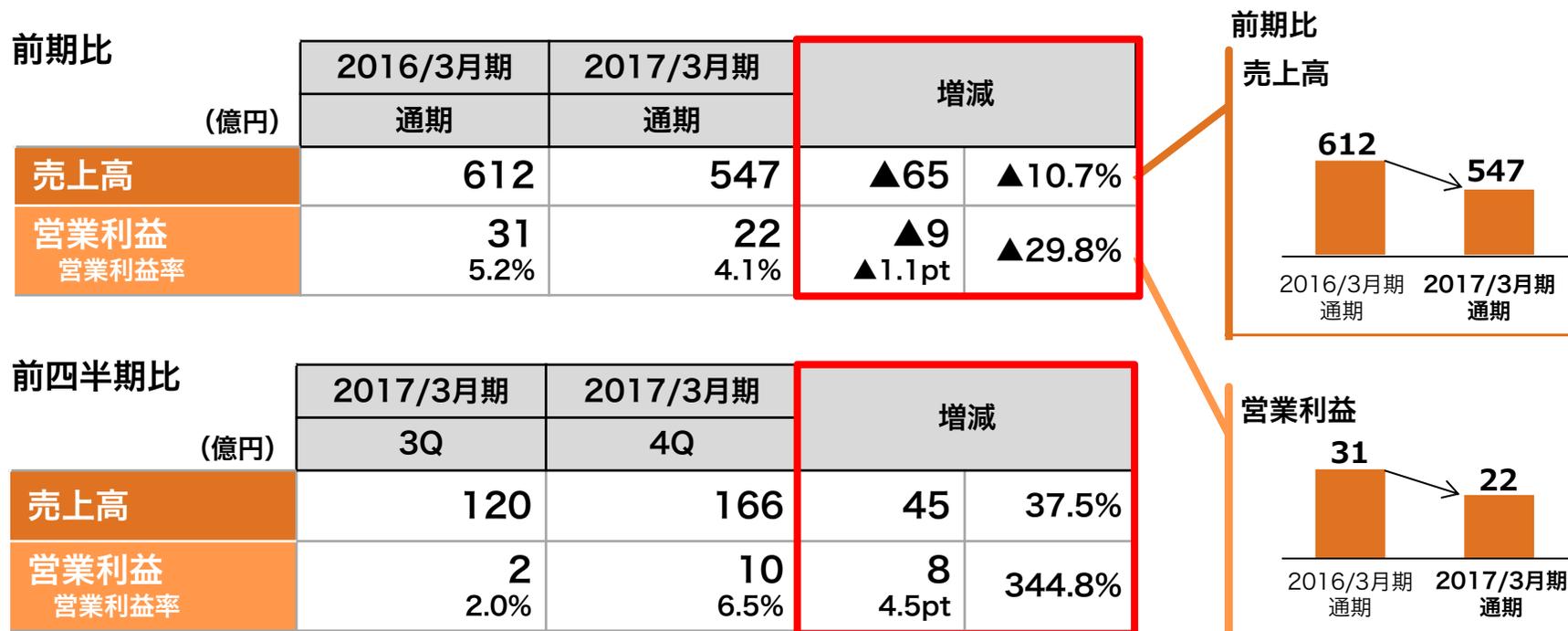
\*ご参考：連結受注高 581億円



### 地域別受注比率(2017/3月期 4Q)

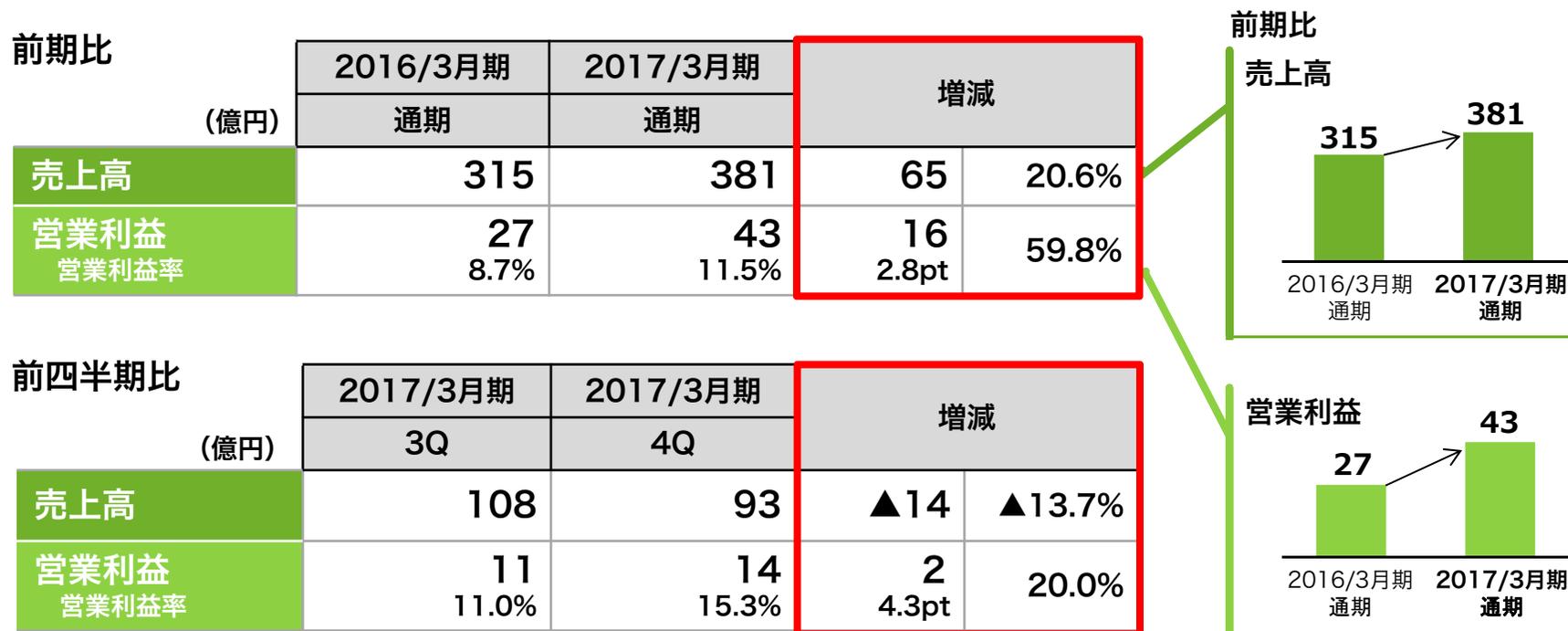


## セグメント別業績概況 <GPセグメント>



- 印刷関連機器事業（GA）は年前半は苦戦するも、期末に掛けて北米でPOD伸長。2018/3月期は、PODの販売強化（特に北米、欧州）をさらに進め、売上、収益ともに改善を図る
- プリント基板関連機器事業（PE）は、アジアでまとまった商談があり、上期に比べて下期は回復。今後は、新製品リリースなどにより売上拡大を目指す

## セグメント別業績概況 <FTセグメント>

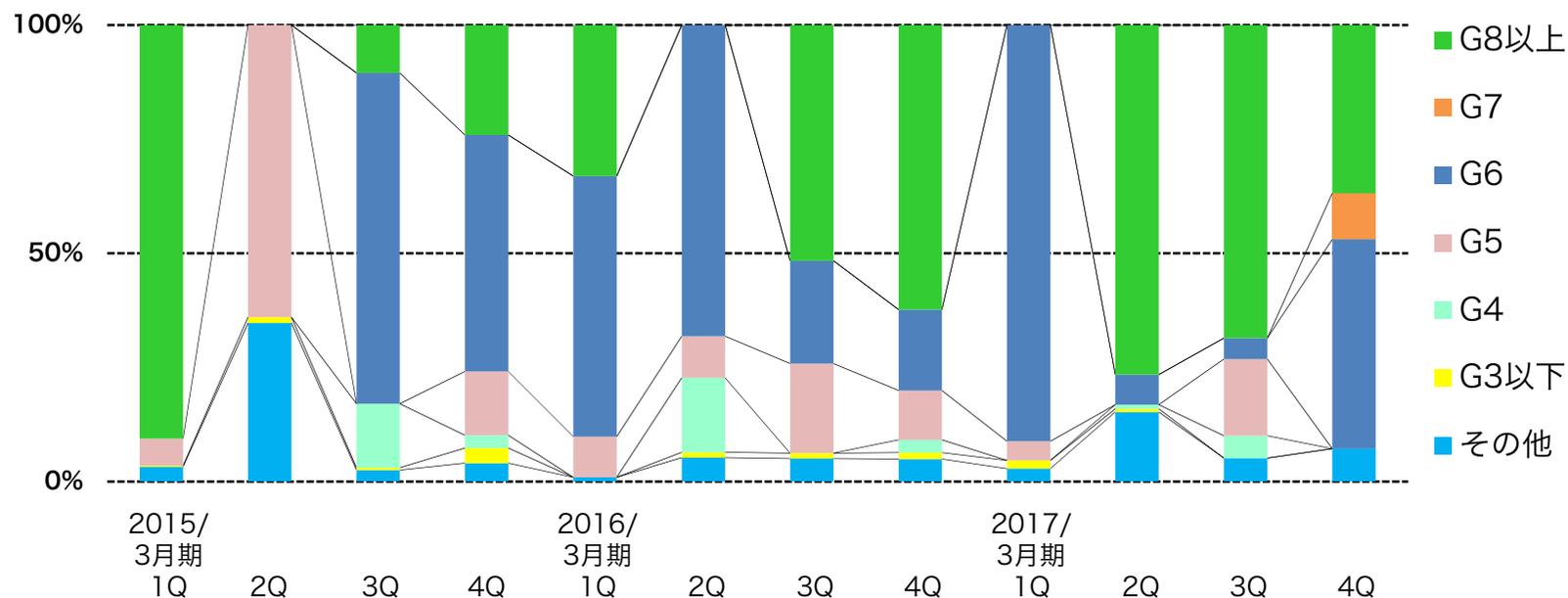


- 通期ベースでは、中小型が前期比で1.6倍に増加。中小型、大型サイズともに、収益拡大に寄与
- 新規事業領域で売上20億円を突破
- 2018/3月期は、LCDのみならず、OLED関連装置の売上が増加する予定。加えて、新規事業領域の拡大を見込む

## 製品サイズ／地域別受注比率・四半期推移 <FTセグメント>

単独・製品サイズ別受注比率

\*ご参考：連結受注高 85億円



地域別受注比率(2017/3月期 4Q)



1. 2017年3月期 連結業績



2. セグメント別業績概況



3. 財務状況



4. 2018年3月期 業績予想



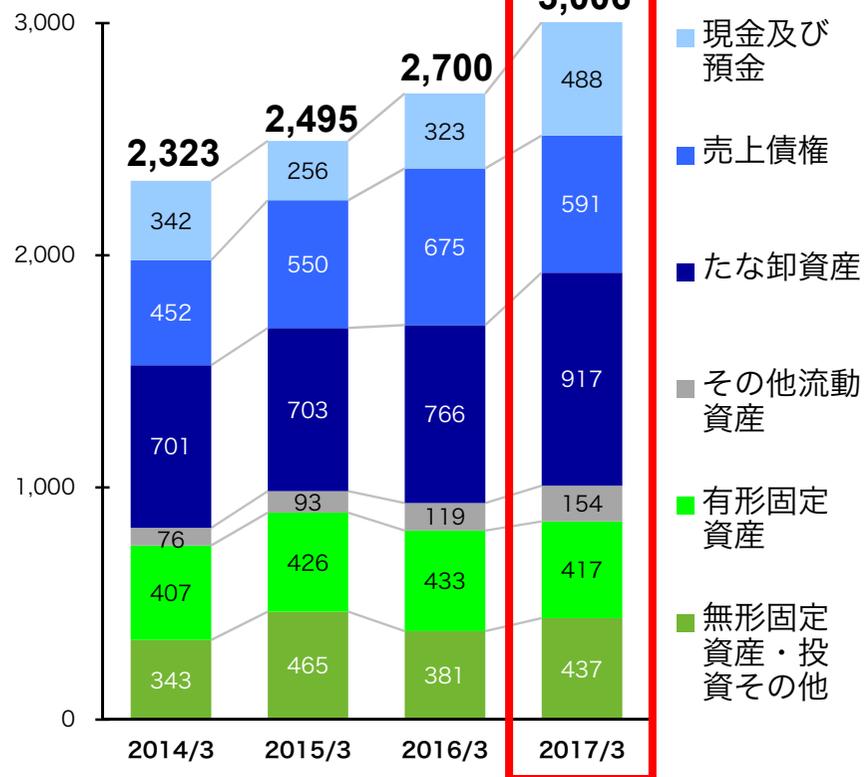
5. 中期3カ年経営計画について



## 連結貸借対照表

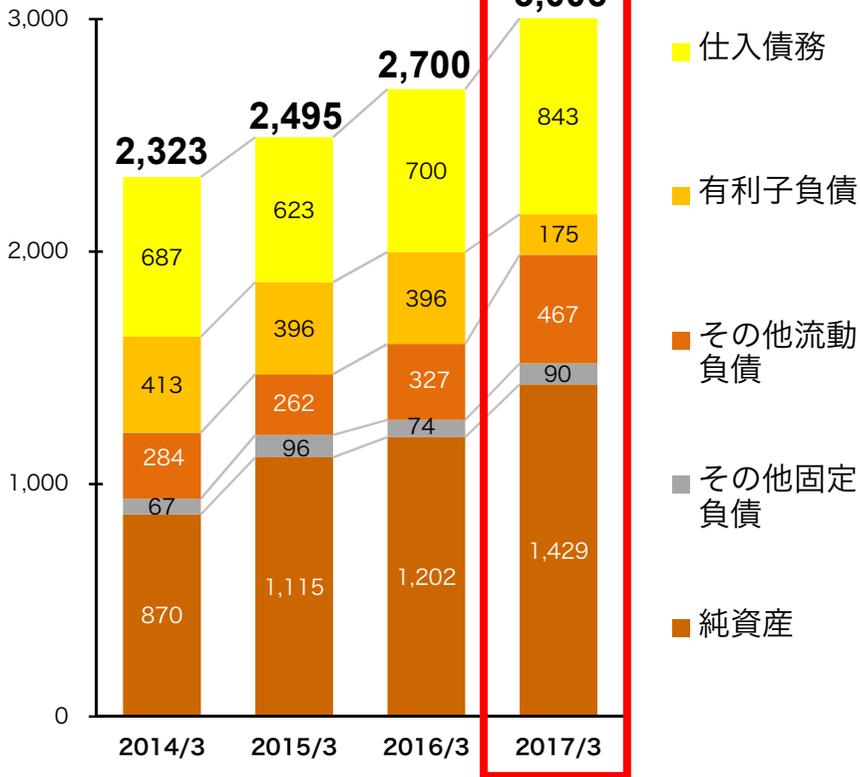
### 資産の部

(億円)



### 負債および純資産の部

(億円)



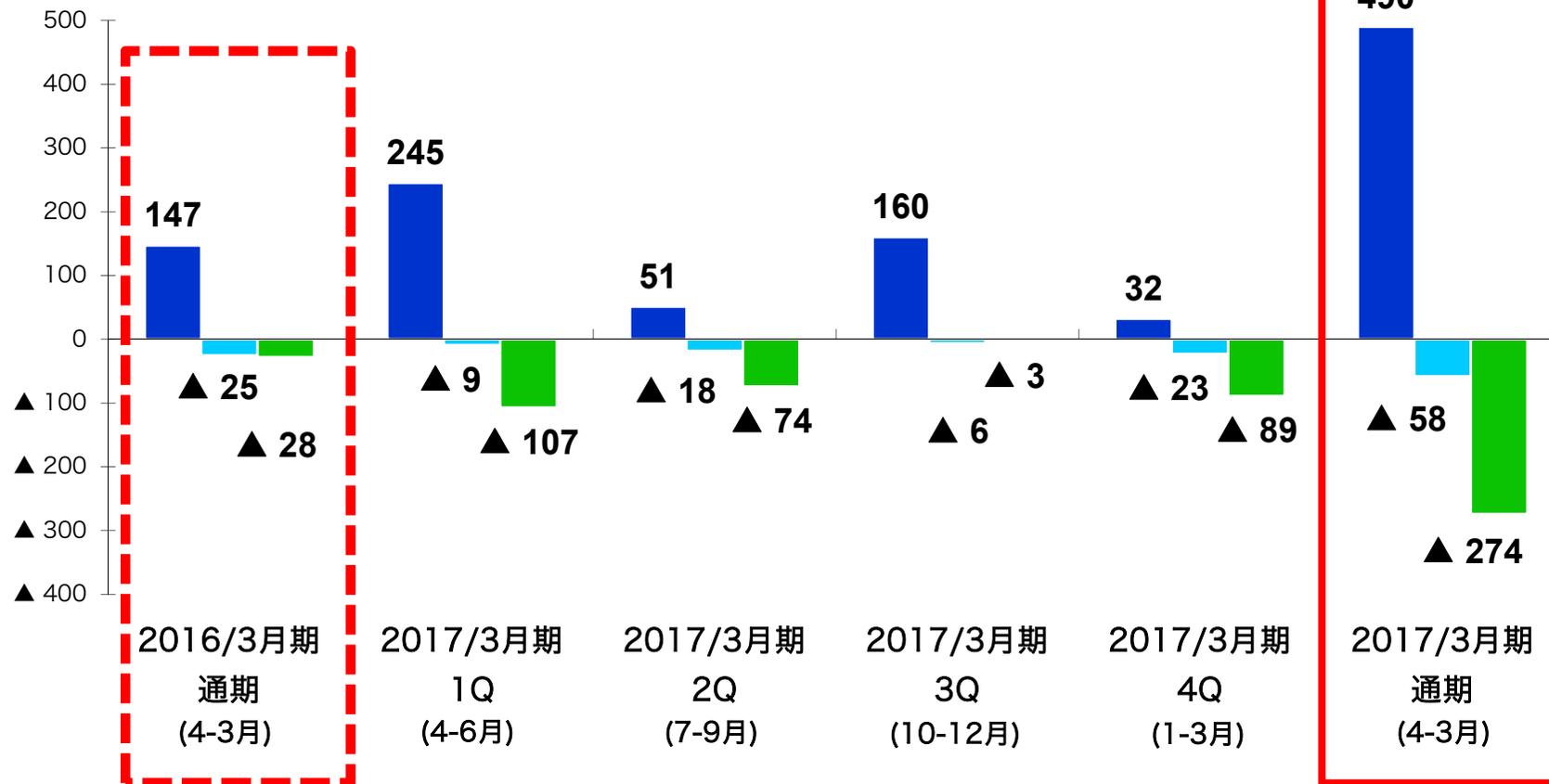
自己資本比率 44.3% (2016/3月末)



**47.5% (2017/3月末)**

連結キャッシュ・フロー

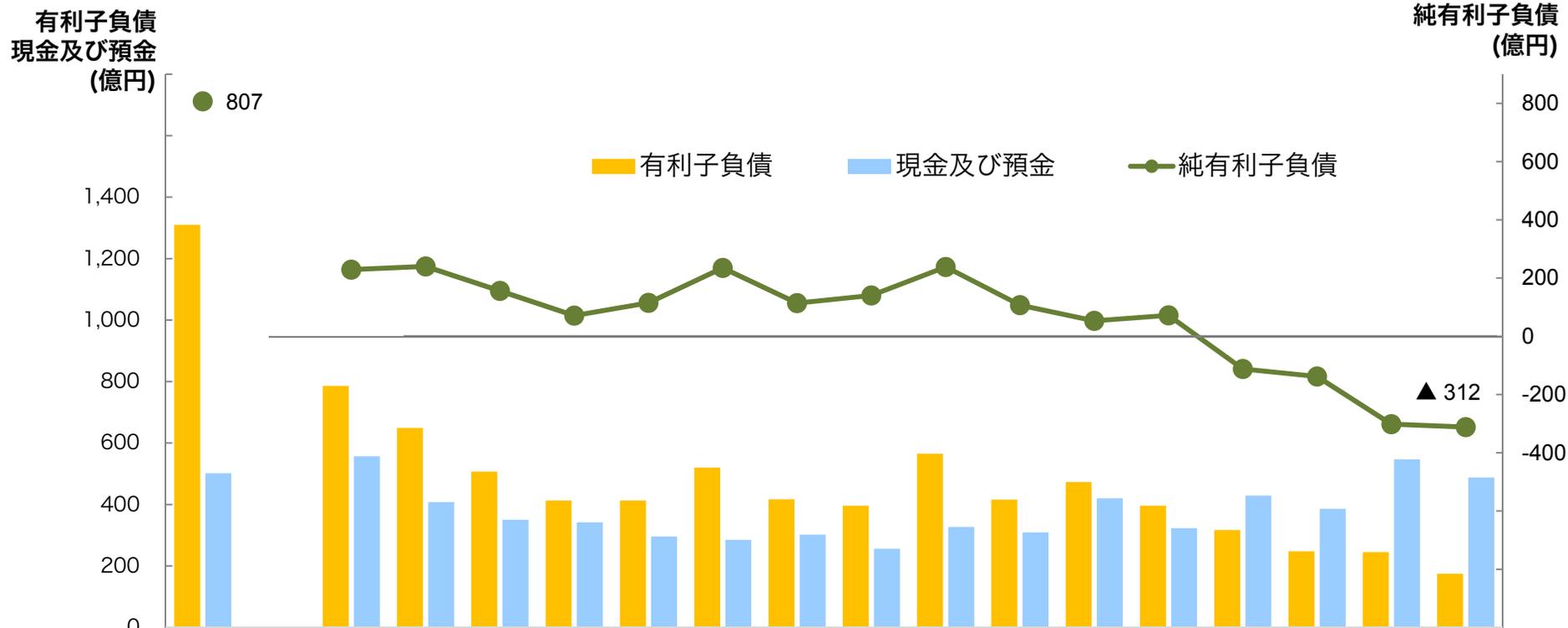
(億円) ■ 営業CF ■ 投資CF ■ 財務CF



2017/3月期 通期 フリーキャッシュ・フロー

431億円

## 連結有利子負債



	2010/ 3月期	2014/3月期				2015/3月期				2016/3月期				2017/3月期			
	6月末	6月末	9月末	12月末	3月末	6月末	9月末	12月末	3月末	6月末	9月末	12月末	3月末	6月末	9月末	12月末	3月末
有利子負債	1,310	786	649	507	413	413	520	417	396	565	416	473	396	317	248	245	175
現金及び預金	502	557	408	350	342	298	285	302	256	327	309	420	323	429	386	547	488
純有利子負債	807	229	240	156	71	115	235	114	140	238	107	53	72	▲112	▲138	▲302	▲312

1. 2017年3月期 連結業績



2. セグメント別業績概況



3. 財務状況



4. 2018年3月期 業績予想



5. 中期3カ年経営計画について



## 2018年3月期 業績予想

(億円)	2017年3月期・実績			2018年3月期・予想		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	1,361	1,640	3,002	1,450	1,600	3,050
SE	916	1,144	2,060	940	1,080	2,020
GP	260	286	547			
GA	220	237	458	241	252	493
PE*	39	49	89	46	51	97
FT	179	201	381	208	187	395
その他	4	8	12	15	30	45
営業利益 営業利益率	121 8.9%	215 13.1%	337 11.2%	140 9.7%	200 12.5%	340 11.1%
経常利益	116	203	320	139	198	337
親会社株主に帰属する 当期純利益	94	147	241	85	138	223

\*2018年3月期より、PEソリューション事業

注) 想定為替レート>> 1USドル=105円、1ユーロ=115円  
 期末配当予想>> 1株当たり87.00円

1. 2017年3月期 連結業績



2. セグメント別業績概況



3. 財務状況



4. 2018年3月期 業績予想



5. 中期3カ年経営計画について



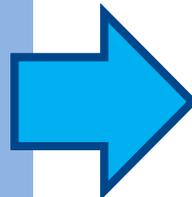
## 中期3カ年経営計画 "Challenge 2016" &lt;2014年4月-2017年3月&gt;

## &gt;&gt;結果の振り返り

## 3つの目標&gt;&gt;

## ① 収益構造改革の完遂

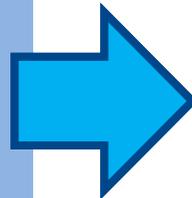
最終年度の営業利益率10%以上



○ 11.2%

## ② 財務体質の強化

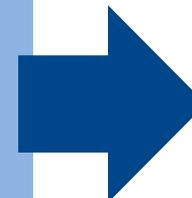
最終年度の自己資本比率50%以上



○ 実質50%

## ③ 新規事業領域での事業化

4つの新規事業領域で黒字化



次期中計へ持ち越し

## ”Challenge 2016” 結果の振り返り

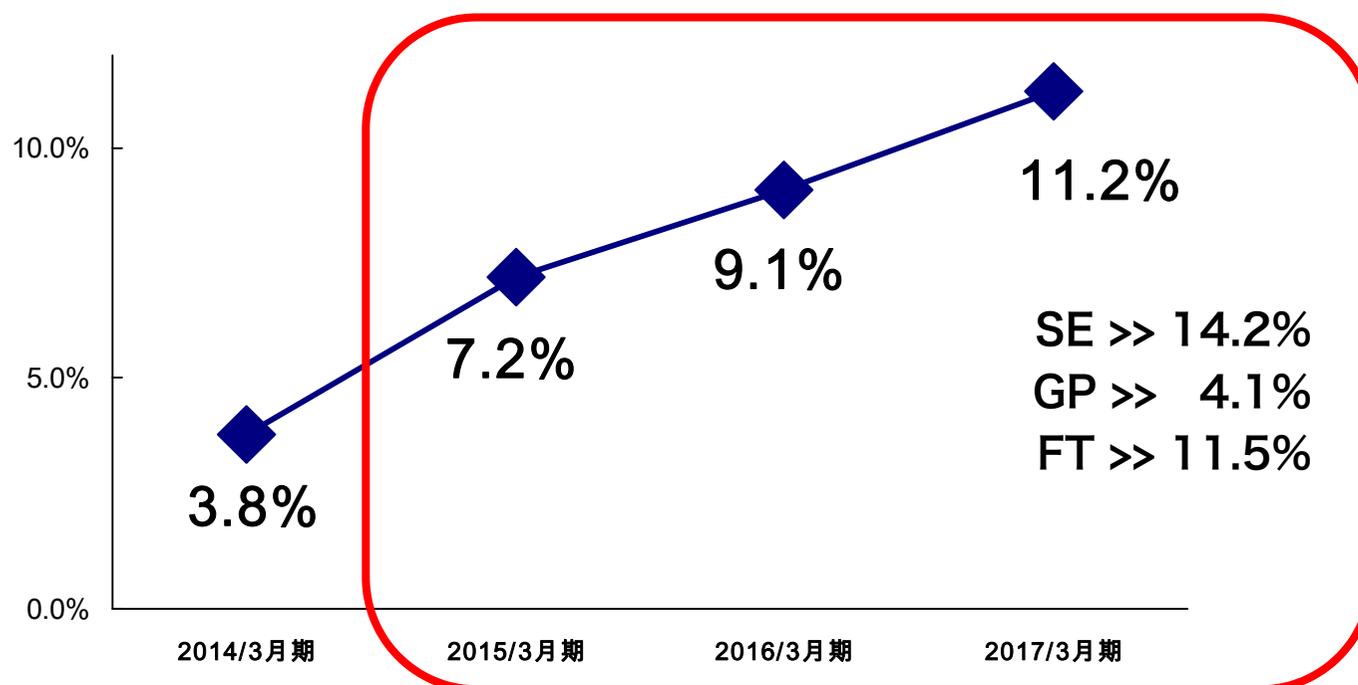
### ① 収益構造改革の完遂

最終年度の営業利益率10%以上

→ 全社で11.2%を達成

SE、FTが牽引

- 全社で変動費率の改善を目指し、継続性も意識した予兆管理（損益分岐点売上の低減）を強化した。



# ”Challenge 2016” 結果の振り返り

## ② 財務体質の強化

→ 自己資本比率、実質50%達成

最終年度の自己資本比率50%以上

自己資本比率  
**47.5%**

自己資本：1,428億円

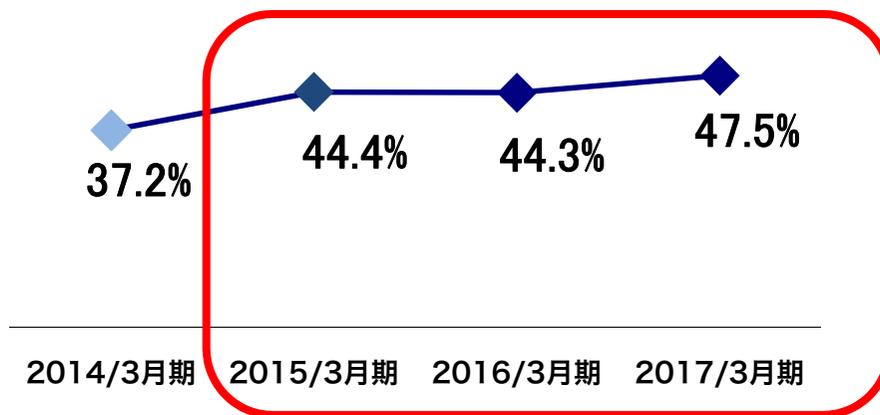
総資産：3,006億円（現預金488億円）

実質・自己資本比率  
**50.0%**

自己資本：1,428億円

総資産：2,856億円（現預金338億円）

△150億円（長期借入金期日前返済）



## ”Challenge 2016” 結果の振り返り

### ③ 新規事業領域での事業化 → 次期中計へ持ち越し課題に 4つの新規事業領域での黒字化

>>エネルギー（FT）は、年間売上が20億円越えるレベルに到達。

>>検査・計測、ライフサイエンス、プリントドエレクトロニクスは、装置評価に  
想定より時間を要し、事業化が遅れた。



インクジェット式鋭剤印刷機  
DP-i3000



高速3Dスキャナー  
Cell<sup>3i</sup>Mager

## ”Challenge 2016” 関連目標の振り返り

### ▶▶ 企業価値向上などの外部発表目標の達成状況

- 連結総還元性向25%を達成  
→配当で17%（予想ベース）、自己株式買いで8%
- ROEの向上により、JPX日経インデックス400構成銘柄に選定  
（2016年8月）
- FCFの最大化を目指し、ネットキャッシュポジションを達成  
（2017年3月期 第1四半期～）
- 日本格付研究所（JCR）による当社格付、  
「BBB（ポジティブ）」から「BBB+（安定的）」へ格上げ  
（2016年12月）

## ”Challenge 2016“

## ●ご参考&gt;&gt; 主要数字の変遷

(億円)	Challenge 2016				
	2013/3月期	2014/3月期	2015/3月期	2016/3月期	2017/3月期
売上高	1,997	2,359	2,376	2,596	3,002
営業利益	-48	89	171	235	337
営業利益率 (%)	-2.4	3.8	7.2	9.1	11.2
総資産	2,323	2,323	2,495	2,700	3,006
自己資本	762	864	1,108	1,196	1,428
自己資本比率 (%)	32.8	37.2	44.4	44.3	47.5
ROE (%)	-14.2	6.7	12.3	16.3	18.4
設備投資	64	45	66	63	82
研究開発	126	122	139	151	177
EPS (円)	-238.75	114.15	255.35	396.75	511.96

# 新・中期3カ年経営計画 “Challenge 2019”

## 基本コンセプト: グループの成長と質の向上

当社を取り巻く環境は、変化が激しく、スピードとイノベーションが求められ、常にビジネスチャンスは存在し、市場としても成長し続けるものと認識。

そのような環境下、Challenge 2019 では、前中期経営計画で確立した収益構造と財務基盤を維持しつつ、グループの成長と質の向上を目指し、持続的な利益創出や株主還元などを推進していく。

### 目標

- 1 単年度連結売上高3,000億円レベル**  
売上規模の拡大
- 2 最終年度の営業利益率13%以上**  
収益性の維持・向上
- 3 ROE15%レベル**  
資本効率の維持・向上

上記における将来数値は、オーガニック・グロースを前提にしています。また、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績などはさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。

## 主な取り組み

- 1 既存事業における損益分岐点売上高比率の改善**  
売上の変動に応じた損益分岐点売上高のコントロール
- 2 装置ビジネスをベースとした周辺領域における収益基盤の確立**  
改造を含むポストセールス（GA分野では消耗品ビジネス含む）のさらなる強化
- 3 一定の財務規律を維持しながらも、積極的に成長投資を実行**  
効果的なM&Aの検討・実施。オープンイノベーション戦略としての研究機関、他社などとの協業、業務提携、ベンチャー企業への出資・支援などの検討・実施
- 4 ESGに重点をおいたCSR経営の推進**  
E：「環境価値」を創造し、低炭素・循環型社会への貢献  
S： ディーセント・ワーク（働き甲斐のある人間らしい仕事）の実現と、社会的価値の創造  
G： 守りと攻めのガバナンス体制の推進とESG情報の開示
- 5 株主還元の充実**  
連結総還元性向 25%以上を目指す

## 事業環境や取り組み

### SE：市場平均を上回る成長率を目指す

- 外部環境：CY2019まで堅調な成長（3カ年、年率5～10%程度）を予想
  - ファウンドリー/ロジック、最先端ノード（10nm、7nm～）への微細化投資
  - 3D-NAND、DRAMのビット需要増加（2018年には中国市場が本格スタート）
- 当社：世界トップシェアの洗浄をはじめ、あらゆるデバイス分野でシェア拡大
  - メモリー、後工程での売上増加、装置では熱処理装置のシェア拡大に注力
  - 新規分野では、成長が見込まれるAdvanced Package分野を開拓



枚葉洗浄装置  
SU-3300



UVレーザーアニール装置  
LT-3100  
超薄膜改質・開発用



直接描画露光装置  
DW-3000 for PLP

# “Challenge 2019”

<事業環境や取り組み>

## GA：シェア拡大を狙いつつ、収益構造改革を断行

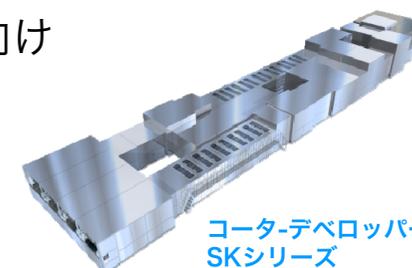
- 外部環境：PODは商業印刷分野に拡大、一方、CTPは緩やかに減少
- 当社：CTPの売上を維持、POD（ラベル・パッケージ向けや連帳式IJ機）インクなどの消耗品のシェア増加
  - 安定かつ成長が期待できるインクビジネスで売上増加（機能性インクの投入）
  - 在庫抑制に注力しつつ、収益体質に変革



デジタル印刷機  
Truepress Jet520NX

## FT：新たな事業ポートフォリオを構築

- 外部環境：ディスプレイ市場は、パネルの供給増加によりアレイコータ市場が縮小。新規領域では、電気自動車の増加によりLiB向け投資増加
- 当社：ディスプレイ事業では、新たなアプリケーション向け（OLED、フレキシブル、車載用）の売上増で裾野拡大
  - 新規事業領域（リソース増加）を拡大、事業ポートフォリオを変革



コーター-デベロッパー  
SKシリーズ

## “Challenge 2019”

&lt;事業環境や取り組み&gt;

## PE：市場でのプレゼンスを上げる

- 外部環境：スマートフォンの高機能機への買い換え需要は継続。自動車、通信、データストレージ、ロボット、医療産業でのIoT需要増加により、PCB市場は2020年に掛けて2～5%の成長を見込む
- 当社：2017年4月に独立会社に。新製品投入による売上拡大で、市場でのプレゼンスを上げる

直接描画装置  
Ledia 6

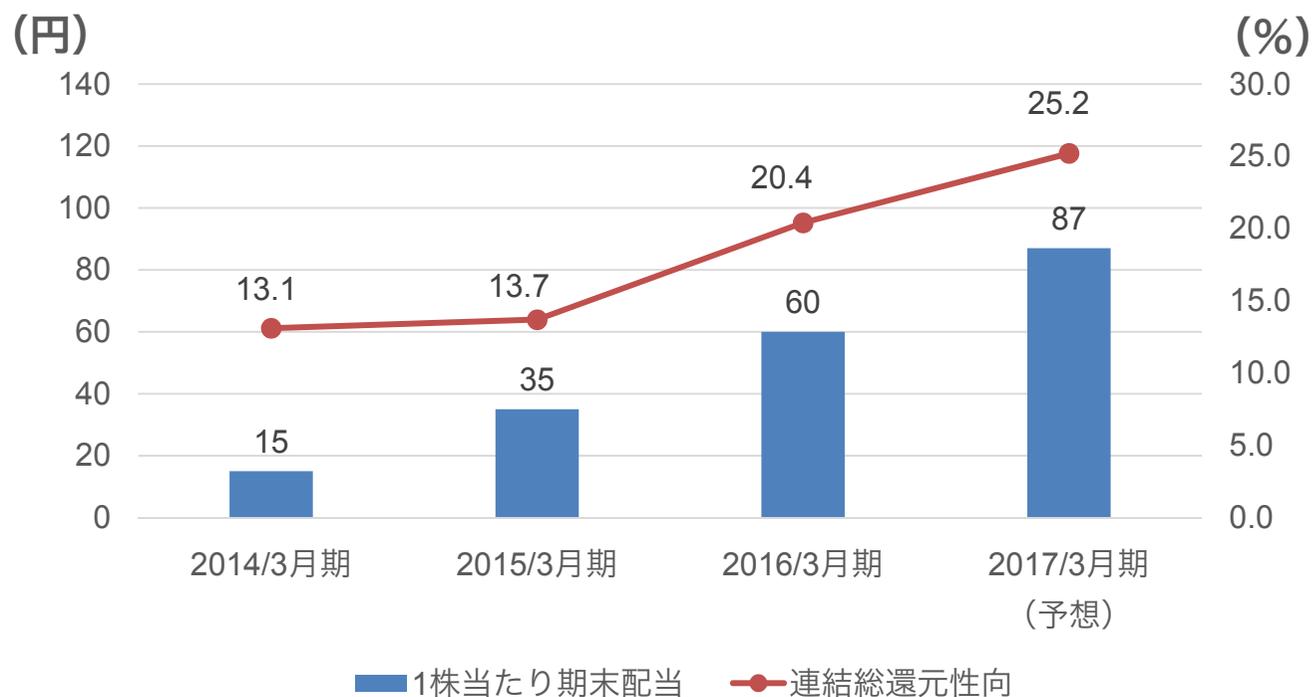
## 新規事業：新たなチャレンジ

- 外部環境：ライフサイエンス市場においては、創薬、再生医療、iPS細胞の研究開発投資の増加。自動車業界・検査・計測市場では、鍛造部品他の目視検査の自動化ニーズが増加
- 当社：成長市場をターゲットに製品ラインナップの拡充や営業力を強化  
→顧客企業での装置評価から、売上増加フェーズに移行

インクジェット式鋭削印刷機  
DP-i3000

## 株主還元の充実

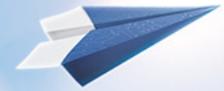
連結総還元性向25%以上を目指す



\*上記配当数値は、2016年10月1日付で実施した株式併合（5株を1株に）後の基準で換算したものです。

**SCREEN**

**Fit your needs, Fit your future**



**SCREEN**